

# 13 事業承継

---

## 基本情報



【年 齢】  
36歳  
【出身地】  
宮城県仙台市  
【転出元】  
宮城県仙台市  
【前 職】  
クリエイター  
【活動時期】  
R5.6～

## 協力隊に応募したきっかけ

奥州市出身のパートナーから「Uターンを考えている」と話があり、2022年開催の「創業塾in奥州市」に参加した際、南部鉄器の地域おこし協力隊の話を伺い、興味を持ちました。さらに、その後も企業振興課と都市プロモーション課の方々に工房見学や市内をご案内いただく中で「国内外への情報発信や美大や工業大学の学生へのアプローチなどで、南部鉄器の魅力はもちろん次世代の担い手を工房と繋げるお手伝いができないか」と思い、応募させていただきました。

## 今後の抱負・任期後の目標

次世代の担い手と成り得る人材や教育機関との連携をより強固とする関係人口交流事業を工房や組合、行政の皆様と協働していけたらと思っております。任期後は、組合と行政機関から委託事業として学生インターン事業での企業と担い手向けのシェアハウスや地域住人の愛着心向上と雇用創出のための南部鉄器カフェ（2024年9月28日オープン）でも南部鉄器のレンタル事業を展開していきたいです。

## 活動内容

## ●南部鉄器のPR

- 1) 「鉄瓶婆（てつびんばあ）」  
白湯提供パフォーマンス。おいしさや美と健康を愉しむ「南部鉄瓶の白湯」と南部鉄器の手軽さを周知
- 2) 伝統産業会館のリニューアル企画提案  
学芸員資格を活用して、博物館に並ぶ「学びの場」としての機能強化と設備の充実を提案



※白湯を手渡す鉄瓶婆（てつびんばあ）

## ●南部鉄器カフェ「鐵喫茶a-hūm（てつきさ あうん）」

水沢羽田地区に唯一残っていたスナック喫茶を事業承継し、奥州市民の南部鉄器に対する愛着心向上、地域住民と観光客の交流促進、南部鉄器職人たちの憩いの場として起業。2024年9月28日にグランドオープン。

メニューは南部鉄器を使用したもつ鍋やナポリタン、鉄瓶の白湯で淹れたコーヒーや煎茶などが楽しめる。



## ●学生インターン

南部鉄器の製造における関係交流人口増加と後継者育成の持続化を目的に、奥州市内の高校、ものづくり・美術大学の学生に、南部鉄器への愛着と関心を持たせるための職業教育の一環として、産官学連携での有償インターンシップ制度を構築する。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
（メールアドレス）a.hum20240928@gmail.com  
（電話番号（個人））080-5645-6795  
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
（鉄瓶婆）[https://www.instagram.com/tetsubim\\_baba/](https://www.instagram.com/tetsubim_baba/)  
（鐵喫茶a-hūm）[https://www.instagram.com/nanbutekkicafe\\_ahum/](https://www.instagram.com/nanbutekkicafe_ahum/)

## 基本情報



【年齢】  
24歳  
【出身地】  
宮城県仙台市  
【転出元】  
宮城県仙台市  
【前職】  
大工  
【活動時期】  
R6.2~R9.1

## 協力隊に応募したきっかけ

小さい頃から観光漁業を見る機会があり、チャレンジしてみたい事業の一つでした。

また、利府町の漁業が衰退していると聞き、昔ながらの漁業を継承し次の世代に受け継いでいきたい思いがあり、応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

活動内容にある、3つの活動を引き続き継続していきたいと思います。

任期後は、継承した技術を生かし、利府町の漁業を守っていきたいです。

## 活動内容

## ●漁業継承のための活動

利府町の漁業の後継者が不足しているなか、自分たちが今後担っていくべく、ワカメや海苔、牡蠣漁師さんのお手伝いをしながら、昔ながらの漁法を教えてもらい、技術を習得しています。



## ●環境保全活動

観光資源となる無人島や、漁港のクリーン活動を行い、環境保全活動にも力を入れています。



## ●海洋教育

小学生や子どもたち向けのタッチプールイベント（生きている魚などに触れることのできるイベント）などを通して、海に親しみ、海を守ることの大切さを学ぶ「海洋教育」を行っています。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
（メールアドレス（個人））[ryumin0106@gmail.com](mailto:ryumin0106@gmail.com)  
（電話番号（個人））080-6293-5219

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
（Instagram）



@RIFU\_UMI0201

## 基本情報



【年 齢】  
34歳  
【出身地】  
長崎県長崎市  
【転出元】  
長崎県長崎市  
【前 職】  
フリーター  
【活動時期】  
R4.4～

## 協力隊に応募したきっかけ

地域の伝統工芸と宿泊業が後継者不足問題に直面していることを知り、自身の好奇心とミッションが重なっていたので応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

任期終了後も定住するために収入の基盤を整えてきたので、しっかり自立できるよう残りの任期を有効に全うしたいです。伝統工芸面では年内に都心部での展示を予定しているため現在そのために作品を制作中。宿泊業では来春からの本オープンを目指し整備中。

## 活動内容

## ●作品展示実施

個人の展示もですが、現在注力しているのが地元の作家6人で構成された工芸グループでの活動です。昨年は百貨店の美術サロンで展示を開催した他、今年は仙台、東京での展示を実施します。一丸となって地域の魅力を発信しています。



## ●山葡萄つる細工講習

後継者育成のために地元でつる細工講習を実施しています。個人ではなかなか大変ですが自治体も一緒になって取り組んでいるため参加者に満足してもらえる講習を実施することができています。



## ●ゲストハウス

本オープンは来春ですが現在も時々宿泊者を受け入れて営業しています。ゆくゆくは宿泊して伝統工芸の体験をできるような滞在経験をやっていけたらと考えています。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
(メールアドレス(個人or職場)) itohiroshi0228@gmail.com  
(電話番号(個人or職場)) 09018568949

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
(HP) koguma-o.com

## 基本情報



【年齢】  
34歳  
【出身地】  
福岡県久留米市  
【転出元】  
福岡県久留米市  
【前職】  
飲食業  
【活動時期】  
R6.6～

## 協力隊に応募したきっかけ

長年、飲食業に従事する中で包丁に興味を持っていました。とりわけ近年のインバウンド需要の高まりを受け、外国人観光客に日本の包丁が人気であることを知り、彼らにより丁寧に日本の包丁や鍛冶の文化を説明できるよう、改めて勉強する機会を探していたところ、地域おこし協力隊の活動を知りました。単に伝統技術について教えるだけでなく、こちらからも接客業での経験も活かして貢献できるのではと考え、応募をしました。

## 今後の抱負・任期後の目標

三条鍛冶道場に常駐する元職人の指導員さんや、活動を支援する現役職人の皆さんは、ものをつくる大先輩ではありますが、一般人への体験指導は試行錯誤を重ねている状況です。鍛冶技術を教えていただきながら、自分の接客業や海外滞在での経験を生かして、より魅力的な体験講座を構築していきたいです。特に、海外の方により興味を持ってもらえる工夫を重ねていきたいです。任期後には、特に海外の方に向けて、日本の鍛冶技術を発信できれば面白いと思っています。

## 活動内容

## ●三条鍛冶道場 常設講座の改善

三条鍛冶道場では従前から、鍛冶の世界の入口を身近に体験してもらうため3種類の常設講座を実施しています。海外観光客を中心に、より鍛冶の魅力が伝わるにはどうすればよいか、日々、試行錯誤を繰り返して工夫しています。また、高齢化が進む指導スタッフ補充のため、育成方法を検討しています。



## ●三条鍛冶道場 鍛冶技術体験イベント講座運営の支援

三条鍛冶道場では現役鍛冶職人を講師に迎え、本格的な鍛冶技術を体験できるイベントを実施しています。これらの鍛冶技術は一朝一夕で身に付くものではありませんが、運営補助をしながら技術を学び、新しい講座のヒントを探るとともに、技能継承を受ける目線から職人育成の課題を掘り下げています。



## ●三条鍛冶道場 新規講座の開発

常設講座の体験者や、指導に来る鍛冶職人など、多くの人の意見を聞きながら、より魅力的な新しい鍛冶体験講座が出来ないか検討を進めています。現在、常設の包丁研ぎ体験と、イベント的な包丁づくり体験の中間的な包丁の仕上げ体験の可能性を具体的に検討しています。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
(メールアドレス(職場)) [kaji@city.sanjo.niigata.jp](mailto:kaji@city.sanjo.niigata.jp)  
(電話番号(職場)) 0256-34-8080

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

note 三条で暮らす。

<https://sanjo-city.note.jp/m/mebbc070894b4>

## 基本情報



【年齢】  
35歳  
【出身地】  
千葉県我孫子市  
【転出元】  
千葉県我孫子市  
【前職】  
個人事業主（飲食店経営、  
料理、絵画制作）  
【活動時期】  
R4.12～R7.11

## 協力隊に応募したきっかけ

応募理由は移住と手漉き和紙の2点。以前新聞記者として働いていた頃、協力隊への取材経験が多かったこともあり、地方への移住を視野に入れたときに協力隊という選択肢への理解があったこと。同時に、絵画制作を行う中で関心の強かった手漉き和紙の世界に飛び込んでみたいという気持ちがあった。長和町にある「立岩和紙の伝承」の協力隊募集の記事を目にする。立岩和紙について調べてもなかなか出てこず、直接現地に行きいろいろな方から話を聞くも生産、販売、伝承の枠組みなどの実態が把握できずにいた。そんな現状の中で募集が行われていることの不思議さと、いっそ身を置いて確かめてみるしかないという好奇心に駆られ応募に踏み切った。

## 今後の抱負・任期後の目標

手漉き和紙の技術的な研鑽はもちろん、和紙の可能性を追求しながら伝承活動を担っていく。和紙作りをはじめ、創作和紙や加工物の製作、作品制作などを通して引き続き取り組み、まずは知っていたためにPR等にも力をいれる。同時に、閉鎖的な形で維持されてきたゆえに立岩和紙をめぐる現状には多くの課題がある。私が率先して行動に起こし、多くの人に理解をいただきながら課題解決にもあたりたい。手漉き和紙という文化的な価値は町にとどめるだけでなく広域的に創造していける財産と捉え、近隣市町村を巻き込むような活動も引き続き行う。任期後は伝承の担い手としての役割を担うためにも、町の工房を利用した独立型の職人兼作家を目指す。

## 活動内容

## ●立岩和紙の伝承

和紙の里にある工房を利用した和紙作りをはじめ、保存会活動への参加、地元産楮の栽培・収穫活動などにも取り組み伝承活動にあたっている。現在では仕込みから紙漉き、乾燥までの全工程を一人で行う。歴史的経緯や工房の状況を踏まえ、冬場を中心に和紙作りに励み、合わせて和紙の原料を仕込む工程の明確化（データの保存と写真による記録）、楮の収量の確保への取り組み、他産地へ出向いて老朽化した道具や技術に関する情報収集などにもあたっている。



## ●創作的な実験、可能性の追求と関係構築

紙漉き屋が途絶えて50年近く経つ。大正～昭和にかけて生産があった「立岩和紙といえば障子紙」という印象がいまだに残る。伝承させていくためにも、手漉き和紙という一つの素材の魅力制限することなく、現代にあわせた形で発展させることが不可欠だと捉え、創作的な和紙作りや加工、レイアウトでの活用などに積極的に取り組み、町内のマーケットや県外での展示活動などへ参加。

また、近隣農家や大学などに協力いただき、廃棄や肥料にまわる食材や異素材を漉きこんだ和紙（葡萄和紙やトマト和紙）などの試作制作や授業での和紙の活用、講義への参加などにも取り組み、外の方たちとの関係構築にも努めている。



## ●発信・PR 上田市立美術館サントミュージーゼでの特別展示

サントミュージーゼで開催されている『第9回山本鼎版画大賞展』で「立岩和紙賞」が新設。受賞者への贈呈用和紙の制作と、大賞展期間にあわせて開催されている立岩和紙の特別展示についての内容や設営も含め、そのすべてを担当した。



## 連絡先

## 【メディア等の取材連絡先】

メールアドレス sasaki-s@town.nagawa.nagano.jp  
電話番号 0268-88-0030（長和町教育課文化財係・歴史館）

## 【活動の様子を発信しているSNS】

Instagram @mershun



## 基本情報



【年 齢】  
46歳  
【出身地】  
三重県東員町  
【転出元】  
岐阜県各務原市  
【前 職】  
鍼灸院経営  
【活動時期】  
R4.8～R7.7

## 協力隊に応募したきっかけ

田舎に憧れていたことが大きな理由です。田舎で暮らしている人たちの生きた知恵や技術を学びたかったし、子どもの教育環境を考えたときに、自然と向かい合っていて遊んで成長してほしいという思いもありました。コロナ禍で患者様が減っていき、鍼灸院の経営をどうしようかなと思っていた時にちょうど募集があったので応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

任期終了後は、今やっている製炭と鍼灸をやっていこうと考えています。製炭は択伐で環境保持に貢献できる他、炭そのものの魅力もあります。また、炭焼き職人が少しでも増えたらいいなと思います。そのためにも広報活動や販路開拓にも力を入れていきたいです。

## 活動内容

## ●協力隊活動について

伝統文化である時山炭（ときやまずみ）製炭の継承が主な任務です。地元住民によって発足された時山炭保存会に支えられ、師匠に教わりながら時山炭を作っています。炭づくりは木を切って、割ったり整えたりして、木を並べて、火を焚いて、煙を観察して蓋をします。たくさんの工程があって奥が深いのでやっていて面白いです。令和5年には炭窯造りもしました。その他に広報・販売などもしています。もともと炭づくりに興味があったわけではなく、師匠達の勇姿に刺激を受け、憧れになりました。やっていくうちにだんだんと時山炭の魅力にハマっていききました。

第一目標は、一人で炭を作れるようになり自活できること。第二目標は、24時間燃え続けるチンチン炭をつくること。第三目標は、択伐し山に風と光を入れて元気な森にすること。

また、活性炭・炭染め・炭石鹸作りなどいろいろなことができるといいなと思っています。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
（メールアドレス（個人or職場）） k\_chiikiseisaku@city.ogaki.lg.jp  
（電話番号（個人or職場）） 0584-45-3113(上石津地域事務所地域政策課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
（上石津まちづくり協議会HP） <http://kamiishizu.sakura.ne.jp/life/archives/21>

## 基本情報



【年齢】  
27歳  
【出身地】  
大阪府東大阪市  
【転出元】  
大阪府東大阪市  
【前職】  
観光農園  
【活動時期】  
R4.4~R7.3

## 協力隊に応募したきっかけ

大学在学中の就職活動で就農に関するイベントへ参加し、香美町のブースで話を聞いたのち、収穫体験へ参加しました。

出身地である大阪から意外と近い場所で梨を栽培していることを知り、もともと梨が好きだったことや独立して観光農園を立ち上げたいと感じたことから、香美町の地域おこし協力隊へ応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

残りの任期で、香美町の特産である「香住梨」の生産技術をしっかり継承し、任期後は香美町内で観光農園を目指し農家として独立したいと考えています。

## 活動内容

### ●香美町の梨栽培技術継承

同じ梨でも気候や土地が違えば、作業の内容や時期が変わっていくため、継承する園の園主さんの後ろについて回り、作業のタイミングや考え方、その技術を二年間学びました。任期最後の今年は学んだことを使い、一人で栽培管理を行い、立派な梨を収穫することができました。



### ●就農フェア

高齢化で年々農家さんが辞めていく現状で産地を守っていくために新規就農者を増やすマイナビ農林水産FESTに参加したりしています。実際の作業の内容などをお話ししたり、インターシップ制度を案内して、一緒に梨づくりをしてくれる仲間を募集しています。



### ●新樹形実証地の管理

香美町では、但馬一号という香美町で生まれた新しい品種があり、その糖度が高いものを「なしおとめ」という名前で販売しています。その品種を省力化樹形であり、早期成園化を図ることができる流線形仕立てに仕立てたモデル園を管理し、調査のお手伝いや新しい技術の習得をしています。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】  
(メールアドレス(職場)) fukufuku10109@outlook.jp

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】  
(SNS:X)  
<https://x.com/6Ryq9kicmSIfu6h?t=dtMzNG4C9CHs30nGhtyjJQA&s=09>

## 基本情報



【年 齢】  
47歳  
【出身地】  
愛知県  
【転出元】  
愛知県  
【前 職】  
派遣アルバイト  
【活動時期】  
R6.5~R8.4

## 協力隊に応募したきっかけ

友達と旅行中、訪れた三原村の農家民宿へ宿泊をした。その時食べたお米とどぶろくのおいしさがとても印象に残り、三原村の空気、風、水、流れる清流、夜空の星、気候など、すべてが三原村を気に入るきっかけとなりました。その後、気になってはいたもののなかなか移住に踏み切れずいたところ、地域おこし協力隊で、どぶろくの後継者募集のホームページが目にとまり、インターンの受け入れを行っているとのことで、すぐに希望しました。2週間の受け入れが終わり、やっぱり三原村でどぶろく作りがしたいという意思が固まったため、応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

もちろんどぶろく作りは継承したいですが、お米作りや、柑橘系（ゆずや直七等）の植え付け、栽培に至るまで等、田舎でしかできないことをたくさん挑戦していきたい。

## 活動内容

### ●どぶろくの後継者育成

毎日、「土佐三原どぶろく合同会社」に出勤し、後継者となれるよう日々努めている。



## 連絡先

【メディア等の取材連絡先】三原村役場  
(メールアドレス(個人or職場)) shinkou@vill.mihara.lg.jp  
(電話番号(個人or職場)) 0880-46-2111

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】QRコードも可  
(現在特になし)

## 基本情報



【年 齢】  
20歳  
【出身地】  
神奈川県横浜市  
【転出元】  
神奈川県横浜市  
【前 職】  
造園業  
【活動時期】  
令和6年 7月1日～

## 協力隊に応募したきっかけ

以前から「球磨川くだり」に興味があったので人吉市を観光し乗船した際に、船頭さんから水害後ほとんどの船頭が辞めてしまい担い手不足になっており、今後続けられないかもしれないことを聞き、やるせない気持ちになりました。自分にも何かできることはないかと考えインターネットで調べたところ、地域おこし協力隊の募集を見つけ、100年以上の歴史を持つ「球磨川くだり」の伝統を引き継ぎ、たくさんの人にこの魅力を伝えたいと考え応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

## ○今後の抱負

任期である3年までに球磨川遊覧船「梅花の渡し」を1人で漕げるようになりたい。

## ○任期後の目標

さらに経験を積み「艦張（ともはり）」だけでなく「船頭」を目指していきたい。

※球磨川くだりは熟練の船頭2人で運航します。船首担当を「船頭」、船尾担当を「艦張（ともはり）」と呼びます。

## 活動内容

## ●船頭になるための練習

船尾の櫓漕ぎによる安定した推進力及び操船が出来るように、平常時の安定した水位と流れの日に操船練習を行っています。

また、操船に必要な基本的知識や船の構造及びある程度の修理方法も学んでいます。



## ●船の積み降ろし作業

クレーンで積み込んだ船を川に降ろし、次の出航に備える作業補助を行っています。

今後は、大型特殊免許等の資格取得にもチャレンジし、業務内容の幅を広げていきたいと考えています。



## ●乗船受付や観光案内

船頭職として重要な乗務員マナーを身に付けるために、乗船受付や案内、乗船説明を行っています。

また、地域おこし協力隊（観光分野）として、人吉球磨地域の観光案内も行っています。



## 連絡先

## 【メディア等の取材連絡先】

連絡先 球磨川くだり株式会社

TEL 0966-22-5555 FAX 0966-24-8174 E-mail : info@kumagawa.co.jp

## 基本情報



【年齢】  
50歳  
【出身地】  
愛知県  
【転出元】  
埼玉県鴻巣市  
【前職】  
美容業界の  
コンサルティング等  
【活動時期】  
R4.11～R6.10（2年間）

## 協力隊に応募したきっかけ

美容業界のフランチャイズ展開事業に携わっていたのですが、知人の社長から会社を継いで欲しいという案件が2件舞い込んできました。

どちらかの会社を継ぐことを考えましたが、この時「事業承継」というワードを意識しはじめました。

そんな中、インターネットで「継業サッチャー」募集の記事を発見し、日南市でなら自分のスキルを活用して、面白いこと、インパクトのある事業ができるのではと思い応募しました。

## 今後の抱負・任期後の目標

人口5万人以下の日南市で、市役所の皆さんの協力のもと「自治体と連携して事業承継の支援ができる仕組み」を構築してきました。

これを持続可能なものにするため、マネタイズ機能を持たせることはもちろん、「マチ」全体で事業承継できる環境づくりを行いたいです。

この事業承継モデルを活用し、廃業を減らすことで市民の満足度低下を防ぎ、ひいては地域活性化の1つとして機能するよう情熱を注ぐつもりです。

## 活動内容

## ●事業承継案件の掘り起こし

市内の飲食店をはじめとする小規模事業者を訪問し、事業承継カルテを作成することで、事業承継に対して「待ち」ではなく積極的なアプローチを行った。店舗の稼働率や価格設定などから、経営状況を分析。経営者の年齢や後継者の有無など、情報を集約したカルテをもとに、事業承継案件の掘り起こしを行っている。

## ●事業承継ネットワークの構築

事業承継案件に対して、市、商工団体、金融機関、事業承継支援機関などの関係団体と連携し、同時にアプローチすることで円滑な事業承継を図るため、事業承継に関するネットワークを構築。

※行政と金融機関は業務連携に関する覚書を締結。

## ●事業承継の啓発

小規模事業者に対し、事業承継に関する啓発や、制度・支援の周知を図る。



事業者に対する継業サッチャーのチラシを作成。店舗等への配布や、金融機関窓口を設置。

## ●現在の取組

協力隊を退任後、「株式会社ネオツグ」を設立し、事業承継支援のプラットフォーム運営を行う傍ら、自らも事業承継し、弁当配達・カフェの経営を行っている。

## 連絡先

(ホームページ) <https://neotsugu.jp>

(電話番号) 070-6410-2106